

# 大阪大学産業科学研究所「第20回 技術室報告会」を聴講して

日影達夫\*、堀木幹夫\*\*、永田陽子\*

\*工学研究科・工学部技術部 分析・物質技術系

\*\*工学研究科・工学部技術部 環境・安全技術系

## はじめに

平成19年11月19～20日に大阪大学銀杏会館において「大阪大学産業科学研究所「第20回技術室報告会」」が開催されました。大阪大学産業科学研究所・技術室は、国立学校設置法施行規則に基づいた「技術室を置く国立大学の大学附置の研究所を指定する訓令」（昭和52年）により、昭和57年に全国の大学附置研究所に於いて初めて設置された研究支援のための技術組織である。この報告会は設置25周年・技術室報告会20回の記念で、「大学における技術職員」をメインテーマとして、技術職員・組織のあり方について再考する会でした。また参加者は、北は北海道から南は沖縄まで全国から150名を超える参加があり（ホームページより）、全国的な規模でした。この報告会に、学外研修として聴講参加したので報告する。下記にスケジュールを示す。

11月19日(月)

13:00 開会

13:05～ 挨拶 川合知二 産業科学研究所長

13:15～ 挨拶 菅沼克昭 技術室運営委員長

13:20～ 挨拶 石橋武 技術報告会実行委員長

<特別講演>

13:30～ 「技術職員の重要性と今後への期待」 西尾章治郎 大阪大学 理事・副学長

14:10～ 「産研における技術職員組織のあり方」 川合知二 産業科学研究所長

14:50～ 休憩

15:00～ 「京都大学における技術職員組織の再構築」 西本清一 京都大学 副学長

15:40～ 「私にとっての大学職員とは」 岩切平治 大阪大学 総務部長

16:20～ 「金属化合物の創製とそれを支える技術」 吉川信一 北海道大学 工学研究科教授

<全国技術職員講話>

17:00～ 「安全衛生への技術組織の取り組み」 小澤忠夫 名古屋工業大学 技術部技術主幹

17:30～ バンケット (銀杏会館3階 大会議室)

-----  
11月20日(火)

<技術報告>

09:00～ 「金属工作に携わって42年の歩み」 角一道明 技術室工作班長

09:20～ 「私と技術室、25年」 石橋武 技術室計測班長

09:40～ 「石英ガラス細工用工具の改良」 松川博昭 技術室工作班ガラス工作係長

10:00～ 「支援スクリプトの作成」 相原千尋 技術室計測班計測・情報システム係長

<ユーザーズレポート>

10:20～ 「蛋白質間相互作用を制御する有機分子の開発とそれを支える技術室」 大神田淳子准教授

#### < 全国技術職員講話 >

10:45 ~ 「機器分析支援センターからの技術支援について」 池原清子 琉球大学 技術専門職員

11:10 ~ 「出前教室への技術組織の取り組み」 丹松美由紀 鳥取大学 技術専門職員

11:35 ~ 「全国技術研究会を開催して」 藤高仁 広島大学 技術センター 技術主任

12:00 ~ 「技術講習会を通じて学民協力」 佐藤和昭 山形大学 工学部技術部

機器分析技術室技術専門職員

12:30 ~ 昼 食

#### < 特別講演 >

13:15 ~ 「宇宙・地球物質の謎解きとそれを支える技術」 吉朝朗 熊本大学 理学部教授

13:55 ~ 「物質・材料研究を支える技術とナノ組織解析研究」 大久保忠勝 物質・材料研究機構

磁性材料センターナノ組織解析グループリーダー

14:35 ~ 休 憩

#### < パネルディスカッション >

14:50 ~ 「大学における技術職員」 全国大学技術室長及び技術長

司会：石橋武、田中高紀、大西政義

17:10 閉会

### 1 . 講演・報告・パネルディスカッション等の概要

「特別講演」等は、教職員から技術職員が果たす重要な役割や最新の研究と技術職員の関係等について講演されました。「全国技術職員講話」では、安全衛生、地域貢献、学民協力等についての取り組みが報告されました。また「技術報告」は産業科学研究所技術室職員の業務内容等が紹介されました。パネルディスカッションは、15人を超える技術長・技術室長等が各組織の紹介等を予定より長く行った為、終了予定時間を1時間程度延長し技術職員組織化の必要性等が討論されました。

### 2 . 聴講しての感想

発表を聴講して技術職員の組織化が現実に行えていると感じた組織は、これからの業務内容を従来の業務時間数を半分程度に削減して大学の共通管理業務（安全管理、情報基盤、地域貢献）への移行を明確にし、教員・事務職員から理解されている（されようと努力している）と思った。

パネルディスカッションでの討論を聴講して、現状のまま組織化をすれば卓越した技術者・経験者があまり経験していない管理職等（組織運営、人事評価等）への移行となるおそれがあり、今までの技術・経験が十分活かされないような気がし「もったいない」ように思った。

今回の報告会は技術職員の組織化について肯定的な意見・考えを持つ発表者が多かったように思う。KEK（高エネルギー加速器研究機構）技術組織のように組織解散を経験した人が、反省点や現状について講演を行う等の企画をすれば、さらなるディスカッションの場となり今後の組織化に役に立つのではないかと思った。

### 3 . 最後に

貴重な学外研修費を報告会の聴講参加に承認して頂いた分析・物質系技術職員をはじめ、関係者の皆様に深く感謝致します。